

「食べる力は生きる力 ～見て、聞いて、気付く誤嚥性肺炎のリスク～」

9月の公開研修会は、鴻池荘訪問リハビリテーション 竹田誠介言語聴覚士を講師に「食べる力は生きる力～見て、聞いて、気付く誤嚥性肺炎のリスク～」というテーマで開催しました。

はじめに、5月の研修会で歯科衛生士よりお伝えした「いつまでも美味しく食べるために、口腔ケアと誤嚥性肺炎を予防することが大切である」という内容を振り返り、2015年の介護報酬改定により、多職種で協力して取り組むことが重点化されているというお話から、本日の講義の目的を伝えさせて頂きました。



そして、まず、誤嚥性肺炎の予防では、「口腔衛生（口腔内殺菌）」「摂食嚥下機能（食べ物や唾液の誤嚥）」「栄養管理（体の抵抗力）」この3つが非常に重要であると伝えさせて頂き、その上で「誤嚥・むせ」は何故起こるのか？（手作りの）模型を使ってそのメカニズムを分かりやすく説明させて頂きました。

次に、摂食嚥下を理解する上で大事な疾患・特性について、「脳卒中を起こすと運動を司る神経を損傷し咽頭の筋肉が働きにくくなり、誤嚥したが咳反射（むせ）が起こらないことがある」「パーキンソン病は、脳内のドーパミンが減少することで、口や舌の動きが緩慢になり強張り『食物残渣』『食塊形成不良』『流涎』といった摂食嚥下障害が必ず現れる」「認知症では、中度から重度になると咀嚼や嚥下機能の低下がある」など、誤嚥のリスクを症例を通して紹介させて頂きました。そして、「ご家族がむせに気付いた時には、すでに嚥下障害が進行している場合が多いため、携わる私たち自身が変化（情報）に気付くことが大切であると伝えさせて頂きました。

最後に、国際的に使われている「嚥下スクリーニング」EAT-10について、専門医に相談すべきかを簡単に判断できるツールを紹介させて頂きました。

今回の研修会は、要介護高齢者になっても、楽しく・美味しく・安全に食べ続けるために、それぞれの疾患に応じた特性を理解して、多職種で誤嚥性肺炎を予防するための視点について皆さんと一緒に学ぶことができました。

